


中世を起源とする五穀豊穡を願う神事  
吉備津彦神社の御田植祭

指定区分	県指定重要無形民俗文化財
読みかた	きびつひこじんじゃのおたうえさい
所在地	岡山市北区一宮(吉備津彦神社)
指定年月日	昭和39年1月16日
解説	毎年8月2・3日に行われる五穀豊穡を願う行事で、御斗代(みとしろ)神事と御幡(おはた)神事の二つからなる。本殿祭において田舞が奉納され、続いていわゆる御田植祭りの御斗代(みとしろ)神事が行われる。翌日に御幡(おはた)神事が行われ、氏子が高さ5メートルあまりの竹棹に、「御幡」十数本をかかげて長い行列を組んで拝殿に入っていく。その後、「御幡」につけられている扇の争奪が行われるが、それを田に置けば豊作になると信じられている。これは、病虫害除けと悪疫退散を祈願する信仰のあらわれと考えられる。
アクセス方法	JR備前一宮駅から徒歩5分 / バス停「中川橋」から徒歩10分
公開状況	開催日: 8月2日 (PM6時～)、3日 (AM10時～)
設備	当日は駐車場で踊り大会が行われるため公共交通機関利用のこと トイレ 
備考	8月2日の夜に神池で行われる御斗代祭はフラッシュ撮影禁止です。

## きつずページ

していくぶん (指定区分)	県指定重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	吉備津彦神社の御田植祭
よみかた	きびつひこじんじゃのおたうえさい
しょざいち (所在地)	岡山市北区一宮(吉備津彦神社)
していつひ (指定した日)	昭和39年1月16日
せつめい	二日(ふつか)にかけて行われるまつりです。1日目は吉備津彦神社(きびつひこじんじゃ)の本殿(ほんでん)で田舞(たまい)という踊(おど)りが踊られます。2日目は竹さおを持って長い行列(ぎょうれつ)をつくって進んでいきます。竹さおにつけられている扇(おうぎ)は縁起(えんぎ)がいいものとされ、最後(さいご)にその扇の争奪戦(そうだつせん)が行われます。